SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

初等・中等教育における複数テキストの利用：新学習指導要領(国語)とその解説の分析

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 静岡大学教育学部 公開日: 2012-03-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小林, 敬一 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00006486

初等・中等教育における複数テキストの利用

－新学習指導要領（国語）とその解説の分析－

The Use of Multiple Texts in Primary and Secondary School Education:
The Analysis of the New Courses of Study (Japanese) and Their Guidebook

小　林　敬　一
Keiichi KOBAYASHI

（平成 23 年 10 月 6 日受理）

This study analyzed the New Courses of Study（Japanese）and their guidebooks（the Ministry of Education, Culture, Sports, and Technology, 2008a, 2008b, 2010）to explore whether and how primary and secondary school education prepares pupils the opportunities of learning how to utilize two or more written texts for speech/presentation, writing, and reading. A total of 34 descriptions concerning the use of multiple texts were extracted from the guidebooks and were classified into two types of multiple texts processing:（a）information search and integration and（b）compare and contrast reading（i.e., comparing and contrasting multiple relevant texts for the comprehension and interpretation of each text, including its author, perspective, passage style, and genre）. The potentials and limitations of these opportunities were discussed.

１．はじめに

いわゆる書かれたテキストを私たちが扱う場合，１つ１つのテキストを別個に処理するだけでなく，複数のテキストを相互に関連づけて処理することも珍しくない。例えば，あるテーマに関して様々な資料を調べ１つのレポートにまとめたり，電化製品を買うためにいくつかのメーカーのパンフレットを比較したりする場合がそうである。インターネットの普及はこうした複数テキスト処理の重要性をいっそう高めている。今や，複数テキストを適切に利用できるということが，私たちが高度知識社会の中で生活していく上で欠かせない条件の１つになっていると言える。

その重要性にも関わらず，先行研究の知見は，大学生であっても複数テキストの利用に困難を示す場合が少なくないことを示唆している（Britt & Aglinskas, 2002; Britt, Wiemer-Hastings, Larson, & Perfetti, 2004; Hynd-Shanahan, Holschuh, & Hubbard, 2004; 小林，2009, 2010a）。これは部分的に複数テキスト処理の複雑さや難しさを理由にすることができるかもしれない（e.g., Bråten, Britt, Strømsø, & Rouet, 2011）。ただし，それだけでは十分でなく，加えて，大学以前の初等・中等教育において彼らが複数テキストの利用やその方法について何を

教えられてきたのかについても見る必要がある（Geisler, 1994; 小林, 2010b）。例えば，初等・中等教育における複数テキストの利用やそのための指導がもっぱら，教科書にない情報を別のテキストで補う活動だけに限定されているとしたら，（より高次な能力・個人的認識論が必要とされる）論争的な複数テキストの処理（小林, 2010b）において大学生がしばしばつまずくのも不思議ではない。ところが，日本の学校教育の中で複数テキストを適切に利用するための力を身につけるためのどういう機会がどのように子どもたちに与えられているのかを明らかにした研究は見当たらない。これらの問題に対する答えを探す１つの試みとして，本論文では，小学校から高等学校までの新学習指導要領（国語）とその解説（文部科学省, 2008a, 2008b, 2010）に焦点を絞り検討を加える。

新学習指導要領（国語）とその解説を分析の対象とするのは次の３つの理由による。第１に，法的拘束力を持つ学習指導要領はそもそも学校教育現場の指導内容を規定するものであり，また，法的拘束力を持たない学習指導要領解説であっても，教科書や教材作成の際に参照されることで学校教育現場の実践に間接的な，しかし無視できない影響を及ぼすと考えられる（田代, 2008）。第２に，新学習指導要領とその解説の中で複数テキストの利用に関する（あるいはそれを示唆する）記述がたくさんあって，しかもそれが小学校から高等学校までの範囲に及んでいる教科は，国語以外にない。他教科について検討を行う前に，新学習指導要領（国語）とその解説が複数テキストの利用を国語教育の中にどう位置づけているかを明らかにすることが先決である。第３に，新学習指導要領（国語）やその解説にある複数テキストの利用に関する記述は，必ずしも一貫した観点からまとめられ整理されていない。したがって，複数テキスト処理という観点から新学習指導要領とその解説の記述を再構成することによって，子どもたちが複数テキストの利用に必要な力を身につけるために国語教育が提供しようとしている機会の全体像を垣間見ることができよう。

２．学習指導要領とその解説にある複数テキスト利用に関する記述

本節では，小学校から高等学校までの新学習指導要領（国語）とその解説の中に，複数テキストの利用に関するどのような記述があるのかを具体的に示す。なお，新学習指導要領（国語）は，従来「内容の取扱い」の中で示していた言語活動例を指導事項とともに「内容」の中で示し，その重要性を強調している点が特徴の１つになっている。そのため，複数テキスト利用に関する記述を探す場合，言語活動例も対象にした。また，学習指導要領にある指導事項や言語活動例の記述だけでは複数テキスト利用に関するものかどうか不明なことが多い。そこで，複数テキスト利用に関する記述はもっぱら両者の解説（小学校は文部科学省[2008a]，中学校は文部科学省[2008b]，高等学校は文部科学省[2010]）から抜粋した。

(1) 小学校

複数テキストの利用に関する記述が初めて現れるのは，中学年の「書くこと」においてである。２つの言語活動例，すなわち，「疑問に思ったことを調べて，報告する文章を書いたり，学級新聞などに表したりする言語活動」，「収集した資料を効果的に使い，説明する文章などを書く言語活動」の解説にそれぞれ次の記述が見られる。

抜粋1-1-1：・・設定した相手，目的や場面に応じて，書く材料の収集や選択の仕方，まとめ方などを様々に工夫することになる。・・学級新聞では，複数の種類の文章を集めて編集し，見出しを付けたり記事を書いたり，割り付けをしたりすることになる。（p. 61）

抜粋1-1-2：「収集した資料を効果的に使い」とは，説明する相手や目的に応じて，本や文章，図表，絵画，写真，具体物などの資料を収集し，考えを高めることと，構成や記述のためにこれらの資料を活用することとである。・・ここでは，例えば文章を図解する資料となっていることや，写真やグラフなどを具体的に解説した文章となっていることなど，文章と図表などの資料とが相互に密接な関連をもつものであることを意識できるようにすることが大切となる。（p. 61）

これらの抜粋は特に，「書くこと」の指導事項のうち，「関心のあることなどから書くことを決め，相手や目的に応じて，書く上で必要な事柄を調べること」（課題設定や取材に関する指導事項）や「文章全体における段落の役割を理解し，自分の考えが明確になるように，段落相互の関係などに注意して文章を構成すること」（構成に関する指導事項），「書こうとすることの中心を明確にし，目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと」（記述に関する指導事項）と関連すると考えられる。

同じく中学年の「読むこと」における２つの言語活動例，「記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合うこと」と「必要な情報を得るために，読んだ内容に関連した他の本や文章などを読むこと」の解説にそれぞれ次の記述がある。

抜粋1-1-3：・・記録や報告の文章を読んで感想などをまとめるためには，記述や説明から，目的や必要に応じて知識や情報を選択すること，表現の仕方に注目すること，以前に読んだ本や文章と比べたり，自分のもっている知識や情報，現実などと結び付けたりして，自分の考えを深めることなどが重要である。（p. 67）

抜粋1-1-4：必要な情報を得るために，読んだ内容に関連した他の本や文章などを取り上げて読む言語活動である。疑問や課題を解決するためには，１冊の本や１編の文章だけでは解決できないこともあり，関連する様々な本や文章を併せて読む必要がある。ここで取り上げる「他の本や文章」は，説明的な文章だけでなく，物語や詩などの文学的な文章も含まれている。（p. 67）

このうち，抜粋1-1-3は「文章を読んで考えたことを発表し合い，一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと」（自分の考えの形成及び交流に関する指導事項）と，抜粋1-1-4は「目的に応じて，いろいろな本や文章を選んで読むこと」（目的に応じた読書に関する指導事項）と関連すると考えられる。

高学年では，「話すこと・聞くこと」にも複数テキストの利用に関する記述が見られる。具体的には，「考えたことや伝えたいことなどから話題を決め，収集した知識や情報を関係付けること」（話題設定や取材に関する指導事項）の解説においてである。

抜粋1-2-1：・・取材については，得た知識や情報を関係付けて活用することを示している。・・メモやノートの内容を比較，対照したり，関連のあることをまとめたり，分類したりして，自分の考えに生かすようにする。・・（p. 76）

この場合の複数テキストは，自分でとった複数のメモやノートということになろう。

「書くこと」には，「考えたことなどから書くことを決め，目的や意図に応じて，書く事柄を

収集し，全体を見通して事柄を整理すること」（課題設定や取材に関する指導事項）の解説と，その指導事項と関連して，言語活動例「自分の課題について調べ，意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりする言語活動」の中にそれぞれ次の記述がある。

抜粋1-2-2：・・「目的や意図に応じて，書く事柄を収集し，全体を見通して事柄を整理すること」とは，目的や意図に応じて，取材の内容や方法を考えながら，実際に情報検索したり取材したりした事柄を，文章の構成や記述に役立つよう整理していくことである。取材の対象や方法としては，本や文章，パンフレットやリーフレット，雑誌や新聞，音声や映像，インタビューやアンケートなど様々なものを取り上げることになる。（p. 81）
抜粋1-2-3：・・これらを「書いたり編集したりする」こととは，一つの文章を書くことに加え，複数の文章を一定の目的の下に組み合わせて表現することである。例えば，意見や活動の報告文集，本や新聞，リーフレットやパンフレットなどを編集することなどが考えられる。・・（pp. 85-86）

さらに，「読むこと」には，「目的に応じて，本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること」（効果的な読み方に関する指導事項），「目的に応じて，複数の本や文章などを選んで比べて読むこと」（目的に応じた読書に関する指導事項）の中にそれぞれ複数テキスト利用に関するかなり詳細な記述が見られる。

抜粋1-2-4：目的に応じて，本や文章を比べて読むなど，効果的な読み方を工夫することを示している。高学年になると，調べるために資料を集めたり，同じ作者や課題について数多くの作品を読んだりするなど読む目的も多様化する。また，調べる範囲も学校図書館から地域の公共図書館や資料館などへと広がる。さらには，本を中心とした資料から新聞や雑誌，インターネットなど様々なメディアへと，その活用や情報収集の範囲も広がっていく。それに応じて，本や文章の読み方を広げていく必要がある。「効果的な読み方」には，比べ読みのほか，速読，本や文章全体を概観しながら拾い読みする摘読，同じ課題で多くの本を重ねたり並行させたりして読む多読などがある。・・（p. 88）
抜粋1-2-5：中学年の「カ目的に応じて，いろいろな本や文章を選んで読むこと。」を受けて，目的に応じて適切な本や文章などを複数選び，比べて読むことを示している。高学年になると，児童の興味・関心が多様になる。一冊の本や一編の文章では，課題を解決しにくいこともある。そこで，「目的に応じて，複数の本や文章などを選んで」読むことが必要となる。「複数の本や文章」とは，同じ課題について違う筆者が執筆した本や文章，同じ書き手の本や文章などのことである。適切な本や文章を選ぶために，学校図書館やインターネットなどの利用に関する知識，情報モラルなどを身に付けさせることが求められる。図書資料を選ぶ場合には，十進分類法の概略や本の配置についての知識や，索引の使い方，事典などの特色などを知っておくことが必要になる。また，図書館，資料館，博物館等の社会教育施設の内容について知り，どこに行けばどのような資料が入手できるのか，どのような観点から必要な情報を探すのかといったことについての知識を身に付ける必要がある。また，複数の本や文章などを「比べて読むこと」は，様々な違いを発見する喜びを知り，知識や情報を豊かにしたり，読書の範囲を広げたりすることにつながり，多くの本や文章などを読むことの意義や楽しさを実感させることになる。それは，読書を日常的に行う読書生活の構築にも役立つ。実際に，読書を日常的に行う生活をつくっていくために，本だけに限らず，新聞や雑誌，パンフレット，インターネットのホームページなど，様々な資料を活用できるよう工夫する。それまでの国語辞典中心の利用から，各種の事典などで事柄を調べ，図書資料を活用することへと発展させたり，本や情報を検索する様々なメディアの活用の仕方を身に付けさせたりするようにしていく必要がある。また，学校図書館や公共図書館

などとのネットワークを活用し，読書環境を整備して児童の読書生活を高めていくことにも配慮する。（pp. 90-91）

(2) 中学校

第１学年の「書くこと」に関する２つの指導事項，「日常生活の中から課題を決め，材料を集めながら自分の考えをまとめること」（課題設定や取材に関する指導事項）と「集めた材料を分類するなどして整理するとともに，段落の役割を考えて文章を構成すること」（構成に関する指導事項）の中にそれぞれ複数テキストの利用に関する記述が見られる。

抜粋2-1-1：小学校第５学年及び第６学年の「ア考えたことなどから書くことを決め，目的や意図に応じて，書く事柄を収集し，全体を見通して事柄を整理すること。」を受けて，書くための課題を決めて材料を集め，考えをまとめることについて示している。‥課題が決まったら，その課題に関連して「材料を集めながら自分の考えをまとめること」になる。材料を集める段階においては，本，新聞・雑誌，テレビ，コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用が考えられる。これらの指導に当たっては，「Ｃ読むこと」の読書と情報活用に関する指導との関連を図ることが重要である。（p. 32）

抜粋2-1-2：・・「集めた材料を分類するなどして整理する」ことは，問題点を見いだしたり，自分の考えをまとめたりするために必要なだけでなく，文章の構成を考える上でも効果的である。書く目的や意図に応じて集めた材料を取捨選択したり，関連を考えて分類したり，時間的な推移や因果関係などに基づいて整理したりすることにより，書こうとする事柄のまとまりや順序が明確になる。・・（p. 32）

また，「読むこと」には，「本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け，目的に応じて必要な情報を読み取ること」（読書と情報活用に関する指導事項）の解説に次の記述がある。

抜粋2-1-3：小学校第５学年及び第６学年の「イ目的に応じて，本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。」，「カ目的に応じて，複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。」を受けて，読書とそれから得た情報を活用することについて示むこと。」を受けて，読書とそれから得た情報を活用することについて示している。「本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け」るとともに，身に付けた方法の中から適した方法を自ら選択し，目的に合った複数の資料を集め，集めた資料から「必要な情報を読み取ること」を求めている。「必要な情報を集めるための方法」とは，例えば，必要な情報があるかどうかを，本の表題や目次，索引等から判断したり，新聞の紙面構成等に基づいて，必要な部分を探して読んだりするなど，それぞれの資料の特性を生かした読み方をすることである。必要な部分に効率よく着目するためには，様々な資料の形式について理解することや，読む目的や対象によって読み方が変わるということを理解することが大切である。「目的に応じて必要な情報を読み取る」ためには，文章の中で必要だと思った部分に印を付したり，必要な部分を抜き書きしたりしながら読み進めることなどが考えられる。その際，一冊の本を最後まで読む，大事な箇所を読む，多くの本に目を通すなどの様々な読み方を学習活動に取り入れることが大切である。本や文章などを目的に応じて的確に読み進めていく活動を通して，読書の範囲を広げ，手に取る本や文章などの質を向上させることも重要である。なお，集めた資料を使用する際には，著作権にも十分留意させる必要がある。（p. 38）

第２学年の場合，複数テキスト利用に関する記述が「話すこと・聞くこと」に関する指導事項「社会生活の中から話題を決め，話したり話し合ったりするための材料を多様な方法で集め整理すること」（話題設定や取材に関する指導事項）の解説に，また，同様の記述が「書くこと」に関する指導事項「社会生活の中から課題を決め，多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめること」（課題設定や取材に関する指導事項）の解説にある。

抜粋2-2-1：・・社会生活における問題を話題として取り上げるためには，話の材料を日常生活からだけでなく広く社会生活から収集する必要がある。そのためには，本，新聞･雑誌，テレビ，コンピュータや情報通信ネットワークなどの様々な情報手段を活用することが一層不可欠となる。このような多様な取材方法を身に付けることにより，話題の範囲が日常生活から社会生活へと拡大していく。なお，取材に関しては「Ｂ書くこと」においても指導する。また，情報の活用については「Ｃ読むこと」においても指導する。それぞれの指導との関連を図ることが大切である。（p. 47）

抜粋2-2-2：第１学年の「ア日常生活の中から課題を決め，材料を集めながら自分の考えをまとめること。」を受けて，課題設定の対象を「社会生活」全般に広げて示している。人間，社会，文化，自然などにかかわる様々な課題を設定し，多様な方法によってそれに関連する材料を収集することを重視する。「多様な方法」としては，第１学年において示した方法に加え，例えば，学校図書館や地域の図書館，公共施設などを利用した資料の収集などが挙げられる。このような方法によって材料を集め，比較，検討しながら自分の考えをまとめることが大切である。なお，取材に関しては「Ａ話すこと･聞くこと」においても指導する。また，情報の活用については「Ｃ読むこと」においても指導する。それぞれの指導と関連を図ることが必要である。（pp. 51-52）

さらに，「読むこと」には，「多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て，自分の考えをまとめること」（読書と情報活用に関する指導事項）の解説と，この指導事項に関連する言語活動例「新聞やインターネット，学校図書館等の施設などを活用して得た情報を比較すること」の解説にそれぞれ次の記述が見られる。

抜粋2-2-3：第１学年の「カ本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け，目的に応じて必要な情報を読み取ること。」を受けて，本や文章などから情報を得て考えをまとめることについて示している。本や文章などを通じて情報を得るには，多様な方法がある。「多様な方法」としては，学校図書館や地域の図書館，公共施設，あるいはコンピュータや情報通信ネットワークなどが挙げられる。これらの施設や情報手段などにはそれぞれ特徴があり，その特徴を生かした情報の収集の仕方について指導する必要がある。このことが，次の段階で，適切な情報を選択する際の基礎になる。「適切な情報」を得るためには，集めた情報について，その真偽や適否を見極めながら自分の目的に応じて整理したり分類したりすることが大切である。このように情報を収集し整理する過程で自分の考えが明確になっていく。また，「自分の考えをまとめる」際には，得た情報をどのように引用すればよいかを考えさせることなどを指導することが大切である。・・なお，この指導事項は，「Ａ話すこと・聞くこと」と「Ｂ書くこと」における取材の指導と関連を図ることが必要である。（p. 56）

抜粋2-2-4：新聞や雑誌，コンピュータや情報通信ネットワークなどの様々な情報手段，学校図書館などから得た情報を比較することにより，それぞれの情報手段や施設などの特徴及びそこから得られた情報の特徴について考えさせる。・・（p. 57）

第３学年では，「書くこと」の指導事項「論理の展開を工夫し，資料を適切に引用するなど

して，説得力のある文章を書くこと」（記述に関する指導事項）において，複数テキスト利用の文脈で引用の問題がとりあげられている。これもまた複数テキスト利用と密接に関連する問題と言える（Britt et al., 2004; 小林, 2010a; Rouet, 2006）。次の抜粋は，この指導事項の解説のうち特に引用に関連する部分である。

抜粋2-3-1：・・「説得力のある文章」にするためには，客観性や信頼性の高い資料を選んで用いることが重要である。資料の内容を吟味することについては，各領域を通じてこれまで指導してきており，第３学年では，選んだ資料を「適切に引用する」ことを重視して指導する。「適切に引用する」ためには，自分の考えの根拠としてふさわしいかどうかについて検討したり，引用部分を明らかにした上で，資料が伝えたいことと自分の考えとの関係について補足したりすることが重要である。引用の際には，かぎ（「」）でくくること，出典を明示すること，引用する文章が適切な量であることなどが大切である。このことが，著作権を尊重し保護することになる。（p. 70）

他にも，言語活動例「目的に応じて様々な文章などを集め，工夫して編集する言語活動」の解説に次の記述がある。

抜粋2-3-2：「編集する」という言語活動は，一つの文章を書く力だけではなく，幾つかの文章を書いて組み合わせることを通して，総合的に考えたり伝えたりする力を高める上で効果的である。例えば，新聞やパンフレット，発表のための資料を編集することなどが考えられる。それぞれの形態に応じて，紙面構成を工夫したり，図表などを効果的に用いたりすることが大切である。また，複数の文章を集めて，課題やテーマに即して整理する活動も考えられる。その際，文章を一つにまとめる意図や目的を明確にして編集することが大切である。（p. 71）

この言語活動例は複数の指導事項と関連すると考えられるが，抜粋部分と関係が深いのは，「社会生活の中から課題を決め，取材を繰り返しながら自分の考えを深めるとともに，文章の形態を選択して適切な構成を工夫すること」（課題設定や取材，構成に関する指導事項）であろう。

「読むこと」については，「文章を読み比べるなどして，構成や展開，表現の仕方について評価すること」（自分の考えの形成に関する指導事項）と，この指導事項と密接に関連する言語活動例として「物語や小説などを読んで批評する言語活動」と「論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読むこと」があり，それぞれ次の記述が見られる。

抜粋2-3-3：・・一つの文章では気が付かなくても，複数の文章を比較しながら読むことにより，構成や展開，表現の仕方等の違いが分かってくることがある。そのことを通じて，様々な文章の形式についての特徴や効果などについて評価する。・・（p. 73）

抜粋2-3-4：・・また適切な批評をするためには，作品を分析する力が必要である。その力を高めるために，例えば，同じ作者による複数の作品や，類似したテーマの作品を読み比べることなどが考えられる。（p. 75）

抜粋2-3-5：「論説」は，新聞の論説をはじめとして物事の理非を論じる文章をいう。書き手が論説の対象として取り上げた物事について，どのような立場からどのような論を展開しているかを読み取ることが大切である。「報道」は，ここでは，新聞や雑誌等の文章を想定している。起こった出来事をとらえ，それについて書き手がどのように報道しているかを読み取ることが大切である。（p. 75）

抜粋2-3-5に複数テキストの利用に関する明確な記述はないが，言語活動例は「比較して読む」となっており，社説や事件の報道などを複数の新聞間で比較する言語活動（井上，2003）が暗に想定されていると見なしてよいだろう。

(3) 高等学校

まず，共通必履修科目である国語総合の場合，「話すこと・聞くこと」の言語活動例として，「調査したことなどをまとめて報告や発表をしたり，内容や表現の仕方を吟味しながらそれらを聞いたりすること」を挙げており，そこには次の記述がある。

> 抜粋3-1-1：・・また，調査によって得た情報を無批判に受け入れたり用いたりすることなく，重要度や信頼度などによって分類，整理し，それらを多角的に分析，考察して，出典や拠り所を示しながら報告や発表を行うようにする。その際，学校図書館や地域の図書館などで情報を収集したり，日々の報道やインターネットなどを活用したりすることも大切である。（p. 19）

これは，指導事項のうち，特に「話題について様々な角度から検討して自分の考えをもち，根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して意見を述べること」（話題について自分の考えをもつこと，論理の構成や展開を工夫することに関する指導事項）と関連していると考えられる。

「書くこと」においては，「相手や目的に応じて題材を選び，文章の形態や文体，語句などを工夫して書くこと」（題材を選び，表現を工夫して書くことに関する指導事項）の解説の中に次の一節がある。

> 抜粋3-1-2：・・この指導事項には，材料を収集する方法やそれを選択する力を身に付けさせることも含んでいる。・・（p. 20）

また，「書くこと」の指導事項全体に関連する言語活動例の１つとして「出典を明示して文章や図表などを引用し，説明や意見などを書くこと」が挙げられているが，その解説の中にある記述も複数テキストの利用に関連する。

> 抜粋3-1-3：・・また，適切な引用をさせるためには，学校図書館や地域の図書館などを活用して，なるべく多くの資料に触れさせる必要もある。なお，引用の際には，かぎ（「」）でくくるなど引用箇所がよく分かるようにすること，引用する文章が適切な量であることなどとともに，ここに示したように「出典を明示」することが，著作権を尊重し保護することになる。（p. 23）

「読むこと」には，「幅広く本や文章を読み，情報を得て用いたり，ものの見方，感じ方，考え方を豊かにしたりすること」（読書をして考えを深めることに関する指導事項）の解説と，それと関連する言語活動例「文字，音声，画像などのメディアによって表現された情報を，課題に応じて読み取り，取捨選択してまとめること」の解説にそれぞれ次の記述がある。

> 抜粋3-1-4：・・「情報を得て用い」るためには，適切な情報源の選択，得た情報の評価，目的に応じた

適切な加工などという，その過程にかかわる指導が必要である。・・(p. 26)

抜粋3-1-5：・・「課題に応じて」は，情報を読み取るための前提である。課題を解決するためには，多くの情報の中から必要なものを見いだし，その価値などを判断する必要があることをまず示している。情報を「読み取り，取捨選択」する際には，情報の信頼性などにも注意する必要がある。特に検索エンジンなどで見付けることができるウェブページには，新しくない情報，正しくない情報，書き手の主観が入った情報なども含まれている。情報を伝えるためのメディアからの情報を活用する際には，この点が特に重要である。また，情報を「まとめる」際には，引用部分や出典を明示するなど，著作権を尊重することも大切である。・・(p. 28)

さらに，「読み比べ」に関する言語活動例として，「様々な文章を読み比べ，内容や表現の仕方について，感想を述べたり批評する文章を書いたりすること」がある。

抜粋3-1-6：「様々な文章を読み比べ」るとは，古典や近代以降の文章を問わず，また，文学的な文章，論理的な文章，実用的な文章を問わず，多種多様な文章を読み比べることである。その際，例えば，それらの文章を時代を超えた一続きの言語文化としてとらえ，古典で描かれた話が近代以降の文章にどのように描き直されているのか，対象は同じでも時を経てどのようにとらえ方や描かれ方が変化していったのか，また，和歌（短歌）や俳句のように同じ形式をとりながら近世までと近代以降とでどのように異なるのかなど，視点を定めて読み比べることが大切である。「内容や表現の仕方などについて，感想を述べたり批評する文章を書いたりする」は，読み比べたことをどのように表現するのかを示している。「批評」とは，対象とする文章の内容や表現の仕方について，その特色や価値などを論じたり，評価したりすることである。読み比べるに当たっては，文章の内容だけでなく，表現の仕方にも着目する必要がある。また，自分なりの感想をもったり，批評したりするためには，思考力や想像力，表現力などが必要である。また，生徒各自が読み比べるだけではなく，ペアやグループで読み比べて話し合ったり，発表し合ったりするなど，学習の形態や方法に様々な工夫を凝らすことも，学習意欲を高める上で大切である。(pp. 28-29)

この言語活動例は，２つの指導事項，「文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと」（表現の特色に注意して読むことに関する指導事項）や「文章の構成や展開を確かめ，内容や表現の仕方について評価したり，書き手の意図をとらえたりすること」（表現の仕方を評価すること，書き手の意図をとらえることに関する指導事項）と関連していると考えられる。

選択科目のうち，複数テキスト利用に関する記述があるのは国語表現，現代文Ａ，現代文Ｂの３つである。まず，国語表現には，「話題や題材に応じて情報を収集し，分析して，自分の考えをまとめたり深めたりすること」（話題や題材に応じた情報を基に，考えをまとめ，深めることに関する指導事項）の解説と，それと関連する言語活動例「関心をもった事柄について調査したことを整理して，解説や論文などにまとめること」の解説にそれぞれその記述がある。

抜粋3-2-1：話題設定や題材選定については，「国語総合」の「Ａ話すこと・聞くこと」及び「Ｂ書くこと」のそれぞれ（1）のアで指導している。ここでは，それを踏まえ，「自分の考えをまとめたり深めたりすること」としている。「話題や題材に応じて情報を収集」するためには，どのような情報が必要であるかを見通すこと，さらにその情報の入手方法についての知識をもっていることなどが必要となる。・・これらの情報には，書籍，文書などの印刷物，新聞，雑誌，テレビ，ラジオなどのマス・メディアあるいはインターネットなどを通じて接することができる。情報を「分析」するとは，収集した情

報を的確に理解してその要素などを明らかにし，情報の正誤，適否などを吟味した上で，必要なものを適切に選択し整理することである。「自分の考えをまとめたり深めたり」するとは，収集し分析した情報を基にして，自分の考えを適切な形にまとめたり，事実についての認識や事実に向き合う態度を自らの内部に形成したりすることである。この指導事項では，社会生活を営む上で必要となる自らの考えを形成するためには，適切な情報を収集し，それを分析し，まとめることが欠かせないという意識を醸成することも大切である。(p. 41)

抜粋3-2-2：・・「調査したことを整理」するとは，収集した情報を無批判に受け入れたり用いたりすることなく，多角的に分析，考察して必要なものを取捨選択し，解説や論文などにまとめる際の資料として活用できるような形に整えることである。その際，必要に応じて，過去の事例や理論的背景などについても調べた上で，まとめる必要がある。この言語活動では，学校図書館や地域の図書館などで情報を収集したり，日々の報道やインターネットなどを活用したりすることも有効である。(p. 46)

現代文Ａでは，「近代以降の言語文化についての課題を設定し，様々な資料を読んで探究して，言語文化について理解を深めること」（近代以降の言語文化についての課題を探究し，理解を深めることに関する指導事項）の解説と，この指導事項と関連する言語活動例「図書館を利用して同じ作者や同じテーマの文章を読み比べ，それについて話し合ったり批評したりすること」の解説に，複数テキスト利用に関する記述が見られる。

抜粋3-3-1：・・「様々な資料を読んで探究」するとは，課題を解決するための手立てである。学校図書館，地域の図書館，インターネットなどで検索したり，実地に踏査したりして得た資料を整理，分析して，分かったことや考えたことをまとめるなどの学習は，生徒の主体的な学習態度の育成にとって大切なことである。なお，資料の収集に際しては，「国語総合」の「Ｃ読むこと」の（2）のイの解説でも述べているように，資料の信頼性や妥当性などに留意する必要がある。・・(p. 52)

抜粋3-3-2：「図書館を利用」するは，読み比べをするための文章を，学校図書館や地域の図書館などの機能を活用して，幅広く入手することを示している。「同じ作者や同じテーマの文章」は，読み比べをする対象となる文章を例示している。同じ作者の文章を数多く読んで，内容や表現の仕方についての特色を見いだすことは，作者や文章についての理解を深めることになる。また，同じテーマについて，様々な立場や角度から述べた文章を読み比べることは，読み手の視野を広げ，テーマや文章を客観的にとらえ，相対化することにつながる。「話し合ったり批評したりする」は，読み比べて分かったことや，気付いたことについて，交流したり考えをまとめたりする仕方を示している。・・(p. 53)

最後に現代文Ｂであるが，「文章を読んで批評することを通して，人間，社会，自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすること」（文章を批評し，考えを深め発展させることに関する指導事項）の解説に次の記述が見られる。

抜粋3-4-1：文章を読んで，ものの見方，感じ方，考え方を豊かにすることについては，「国語総合」の「Ｃ読むこと」の（1）のオで指導している。ここでは，それを踏まえ，「文章を読んで批評する」ことを前提として，「人間，社会，自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすること」としている。文章には，書き手や文章中の人物の，人間，社会，自然などに対する，ものの見方，感じ方，考え方が表現されている。「文章を読んで批評する」ためには，このことを，文章の内容や表現の仕方の両面から的確にとらえる必要がある。その上で，例えば，相反する立場で書かれた文章や評価の異なる文章などと読み比べ，物事を多角的に見て考え，それについて論じたり，評価したりする。・・(pp. 58-59)

加えて，「目的や課題に応じて，収集した様々な情報を分析，整理して資料を作成し，自分の考えを効果的に表現すること」（情報を収集，分析して資料を作成し，考えを効果的に表現することに関する指導事項）の解説と，それと関連する言語活動例「文章を読んで関心をもった事柄などについて課題を設定し，様々な資料を調べ，その成果をまとめて発表したり報告書や論文集などに編集したりすること」の解説にそれぞれ次の記述がある。

抜粋3-4-2：目的や課題に応じて工夫して表現することについては，「国語総合」の「A話すこと・聞くこと」及び「B書くこと」のそれぞれの指導事項で指導している。ここでは，それを踏まえ，「収集した様々な情報を分析，整理して資料を作成し，自分の考えを効果的に表現すること」としている。「目的や課題に応じて，収集した様々な情報を分析，整理して資料を作成」するとは，設定した課題などに応じて収集した様々な情報を，分析したり整理したりして，効果的に表現するために資する資料を作成することである。社会には膨大かつ多種多様な情報が氾濫している。そこで，それらの情報の中から，目的や課題に応じた情報を適切に収集することのできる能力，収集した情報を的確に理解し，その価値を判断し，選択する能力，自分にとって利用しやすい形や内容に整理し資料を作成する能力を育成する必要がある。「自分の考えを効果的に表現する」とは，作成した資料を活用し，自分の考えがよく伝わるよう，論拠を明示するなどして分かりやすく表現するとともに，目的や場にふさわしく表現することである。収集し整理した情報は，表現する際に資料として活用することで生きたものとなる。・・(p. 59)

抜粋3-4-3：・・「様々な資料を調べ」るとは，学校図書館，地域の図書館，インターネットなどで参考となる資料を調べたり，現地に出かけて取材したりするなど，様々な方法によって課題に関する情報を収集，整理し，それについて分析，考察を行うことである。このような活動を基に，設定した課題について自分なりの意見をもち，判断を下して，「その成果をまとめ」ることになる。「発表したり報告書や論文集などに編集したりする」は，成果の公表の仕方を示している。口頭で発表したり，文章にまとめて報告書や論文集に編集したりすることは，一連の学習について成就感を味わわせ，生徒の学習意欲を高めることにつながる。なお，報告書や論文集の編集に当たっては，一人の生徒のものを編む場合，グループごとやホームルーム全体など，複数の生徒のものを編む場合などがある。・・(p. 62)

３．分析と考察

図１は，第２節で抽出した複数テキスト利用に関する記述（抜粋）の数をまとめたものである。新学習指導要領（国語）とその解説というレベルで見た場合，小学校中学年から高校まで複数テキストを利用する機会が国語教育の中に用意されていると言える。

これらの機会は学習指導要領解説の中でどのように結びつけられているのだろうか。解説の中で明示的に結びつけられた記述間の関係や指導事項と言語活動例の関係をまとめると，図２のようになる。この図を見ると，例えば，中学２年生では，複数テキスト利用に関する３つの指導事項（抜粋2-2-1, 2-2-2, 2-2-3）が領域をまたいで互いに関連づけられており，さらにそのうちの２つ（2-2-1, 2-2-3）は中学１年生の指導事項（2-1-1, 2-1-3）ともつながっている。言語活動例（2-2-4）も指導事項（2-2-3）との関係が明確である。しかし，小学校中学年の４つの言語活動例（1-1-1～1-1-4）のように，複数テキスト利用に関する指導事項と結びついていないため，あるいは，抜粋1-2-1や2-1-2のように，指導事項の主眼が他の指導事項のそれと異なるため，ばらばらに孤立しているものも少なくない。複数テキスト処理という観点から学習指導要領とその解説の記述を整理し直すことが必要な理由はここにある。

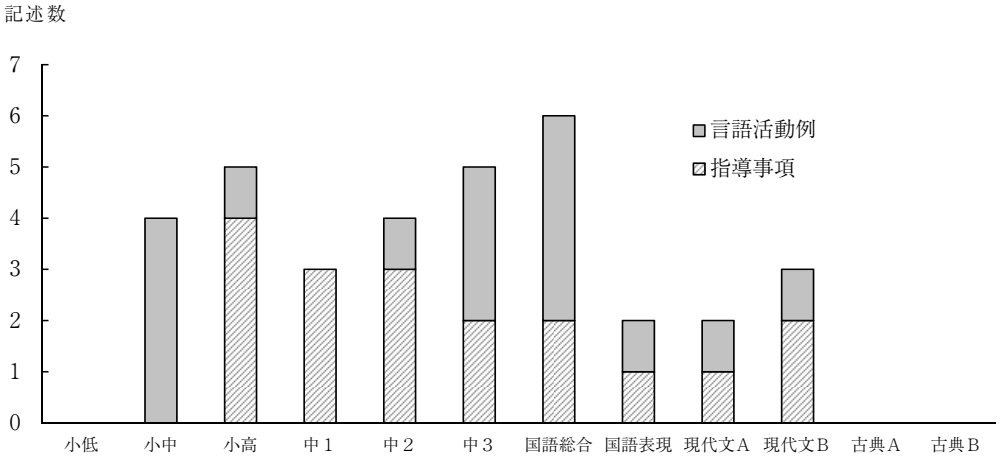
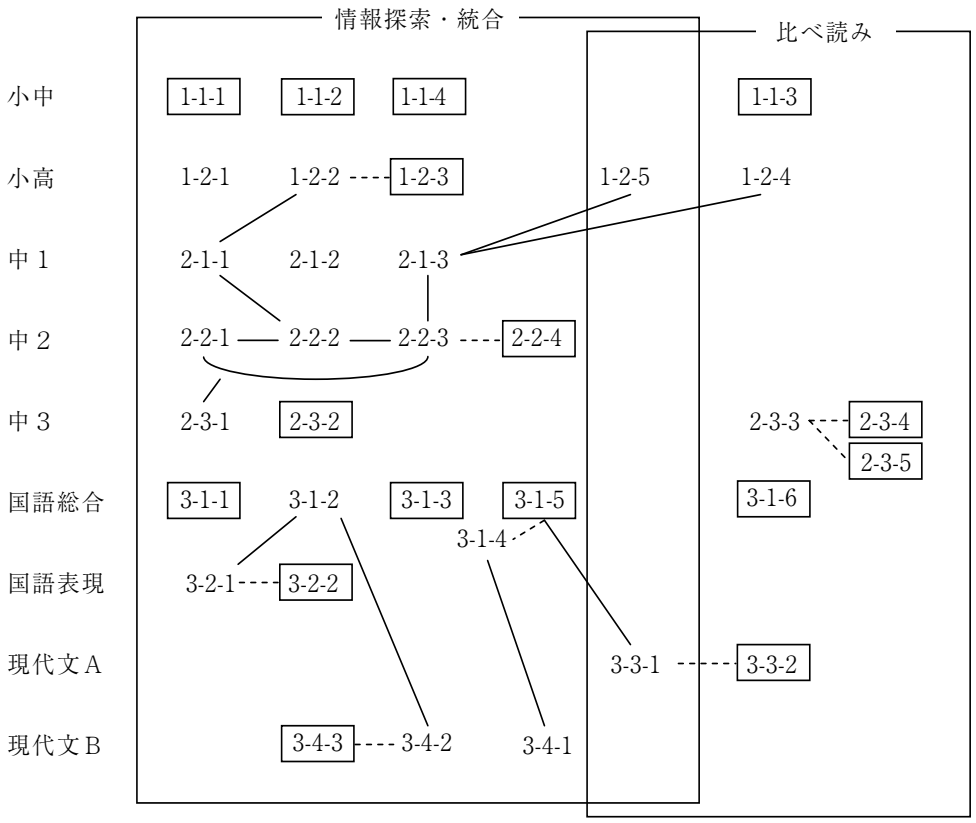


図１　小中高の学習指導要領解説にある複数テキスト利用に関する記述数



（注）□なしの数字：指導事項に関する抜粋，□付きの数字：言語活動例に関する抜粋，
実線：解説で明示的に記述された関係，破線：指導事項と言語活動例の関係。

図２　複数テキスト利用に関する記述の分類と相互関係

そこで，指導事項や言語活動例の本来の狙いや意図を脇に置き，その中で示された複数テキスト利用の機会（記述）を複数テキスト処理の観点から整理し直してみると，それらは大きく２つに分けることができる。１つは情報探索・統合によって特徴づけられる機会であり，図２の左側にまとめられた抜粋がこれに該当する。本論文で言う情報探索・統合とは，学習者が，物事の説明・解釈や自分の意見など，ある１つの考えを作り上げることを目的として複数テキストを探索・収集・取捨選択し，それらのテキストの情報を相補的にあるいは批判的に統合する処理過程を指す（e.g., 逸村･種市, 2005; 小林, 2010b; Rouet, 2006; Spivey, 1997）。その性質上，発表したり書いたりする活動を想定している場合が多いが，けっしてそうした活動に限定されるわけではない。もう１つは「比べて読む」「読み比べる」などのキーワードで特徴づけられる機会で，図２の右側にまとめられた抜粋がそうである（以下，「比べ読み」と呼ぶ）。なお，比べ読みはしばしば，関連づける（られる）テキストそれぞれの，あるいはそれらに共通する観点や立場，思想，表現様式，ジャンルなどに関する気づきを促したり理解を深めたりすることを狙いとした読みとして特徴づけられるが（e.g., 船津, 2010; 井上, 2003; 川上, 2009; 松友, 2005; Sipe, 2000），後述するように，その特徴が明記されるのは中学３年生以降である。

この２つのタイプそれぞれについて，複数テキスト利用の機会が教育段階・学年に沿ってどのように配列されているのかを見ることができる。まず，情報探索・統合に関する特徴的な記

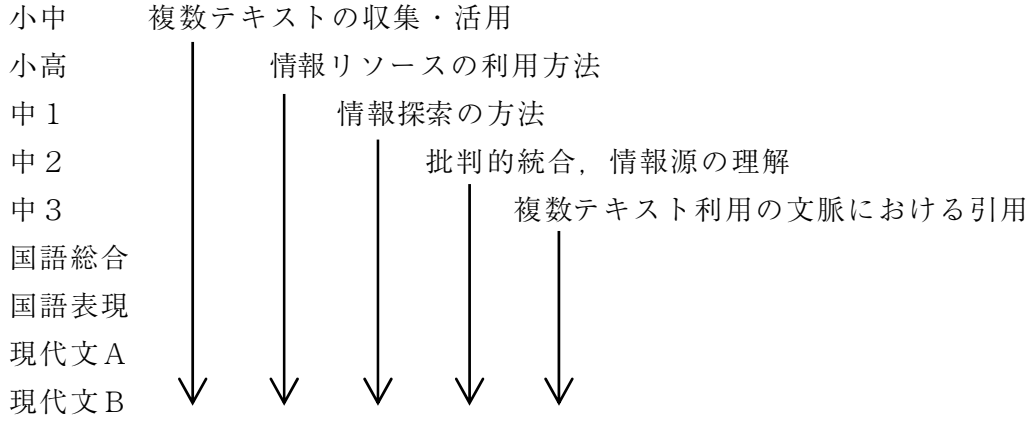


図３　情報探索・統合に関する特徴的な記述の出現学年・科目

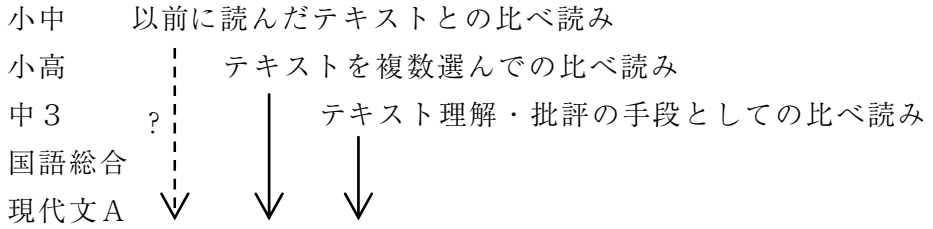


図４　比べ読みに関する特徴的な記述の出現学年・科目

述に着目しまとめたものを図３に示す。図の中にある批判的統合とは「複数テキストを批判的に吟味し関連づけながら，それらのテキストに描かれた事象を推理したり論点に関して判断を下したりする過程とその所産（心的表象や文章など）」（小林, 2010b, p.504）のことである。指導事項や言語活動例の重点が変化するとしても，基本的に，前の学年（あるいは教育段階）で取り上げられたことは後の学年で精緻化されながら，そして洗練されながら引き継がれていると考えられる。図の矢印はそのことを表現している。

情報探索・統合に関する特徴的な記述を教育段階・学年を追って見ていくと，小学校中学年では複数テキストの収集や活用が漠然と示唆されているだけであるのに対して，小学校高学年には，図書館，インターネット，事典などをはじめとする様々な情報リソースの利用や利用方法についての詳細な記述がある（1-2-5）。さらに，中学１年生になると，情報探索の方法に関するさらに踏み込んだ記述が現れる（2-1-3）。そこでは，複数テキストの集め方だけでなく，集めた複数テキストから必要な情報をどのようにして抽出するかという文書探索（e.g., Guthrie, 1988; Rouet, 2006）の方法が具体的に述べられている。中学２年生で現れる特徴的な記述は，「集めた情報について，その真偽や適否を見極めながら自分の目的に応じて整理したり分類したりする」という批判的統合を示唆するもの（2-2-3）や，各情報源の特徴に注意を向けさせたり理解させたりすることを狙ったもの（2-2-3, 2-2-4）である。そして，中学３年生になると，複数テキストの利用を想定した指導事項の中にはじめて引用への言及が現れる（2-3-1）。

同様にして，比べ読みに関する特徴的な記述をまとめものを図４に示す。比べ読みに関する記述は小学校中学年で出現するが，「以前に読んだ本や文章と比べたり」（1-1-3）とあるように，比べるためにテキストを探して読むことは想定されていない。それが明示的に言及されるのは小学校高学年においてからである（1-2-5）。そして，中学３年生になると，文章の形式や表現のし方の特徴（2-3-3）や書き手の立場（2-3-5）など，比べ読みがテキスト理解や批評の手段として明確に位置づけられる。

以上をまとめると，小学校から高等学校までの新学習指導要領解説（国語編）には，情報探索・統合と比べ読みの大きく２つで特徴づけられる複数テキスト利用の機会がある程度，段階的に用意されていることがわかる。もちろん，だからといって，それが直ちに児童・生徒が複数テキストを適切に利用する力を獲得することにつながるわけではない。なぜなら，学習指導要領とその解説にある複数テキスト利用の機会が実際に複数テキスト処理に関する学習の機会になるかどうかは，学習指導要領とその解説を受けてどのような教科書や教材が作られ授業が行われるかに依るからである。例えば，本論文では，小学校中学年の抜粋1-1-1にある言語活動例を複数テキスト利用の機会と位置づけたが，その解説には「説明する相手や目的に応じて，本や文章，図表，絵画，写真，具体物などの資料を収集し」としか記述されていない。したがって，複数の書かれたテキストを利用する機会になるか，それとも，絵画や写真，具体物など，書かれたものではない（広義の）複数テキストが利用されるに留まるかは，学習指導要領とその解説を超える問題である。また，再三述べてきたように，新学習指導要領（国語）とその解説は今回，抽出した記述を複数テキスト利用に関する指導事項や言語活動例として必ずしも位置づけていないため，複数の書かれたテキストを利用する機会が授業の中にあったとしても，それらの機会が子どもの中で十分につながっていかない可能性もあり得る。いずれにしても，新学習指導要領（国語）とその解説が用意している複数テキスト利用の機会が最終的に児童・

生徒の複数テキスト処理能力の獲得・伸長につながっているかどうか，つながっているとするとどうつながっているか，逆につながっていないとしたらどこに原因があるのか，を明らかにする研究が必要であろう。これらの検討は今後の課題としたい。

引用文献

Bråten, I., Britt, M. A., Strømsø, H. I., & Rouet, J.-F. (2011). The role of epistemic beliefs in the comprehension of multiple expository texts: Toward an integrated model. *Educational Psychologist, 46,* 48-70.

Britt, M. A., & Aglinskas, C. (2002). Improving students' ability to identify and use source information. *Cognition and Instruction, 20,* 485-522.

Britt, M. A., Wiemer-Hastings, P., Larson, A. A., & Perfetti, C. A. (2004). Using intelligent feedback to improve sourcing and integration in students' essays. *International Journal of Artificial Intelligence in Education, 14,* 359-374.

船津啓治 (2010). 比べ読みの可能性とその方法 渓水社.

Geisler, C. (1994). *Academic literacy and the nature of expertise: Reading, writing, and knowing in academic philosophy.* Hillsdale, NJ: Erlbaum.

Guthrie, J. T. (1988). Locating information in documents: Examination of a cognitive model. *Reading Research Quarterly, 23,* 178-199.

Hynd-Shanahan, C., Holschuh, J. P., & Hubbard, B. P. (2004). Thinking like a historian: College students' reading of multiple historical documents. *Journal of Literacy Research, 36,* 141-176.

井上一郎（2003）. 読む力の基礎・基本 －17の視点による授業づくり－ 明治図書.

逸村裕・種市淳子（2005）. 大学生のサーチエンジン情報探索行動の分析：タイムサンプリング法を用いて 名古屋大学付属図書館研究年報, *5,* 57-68.

川上弘宜（2009）.「比べ読み・重ね読み」で「一人読み」明治図書.

小林敬一（2009）. 論争的な複数テキストの理解（2）－誤りの分析－ 静岡大学教育学部研究報告（人文・社会科学篇）, *59,* 139-152.

小林敬一（2010a）. 大学生は複数テキスト間の潜在的論争をどう理解するか？ 静岡大学教育学部研究報告（人文・社会・自然科学篇）, *60,* 85-96.

小林敬一（2010b）. 複数テキストの批判的統合 教育心理学研究, *58,* 503-516.

松友一雄 (2005). 比べ読みの学習効果とその方法 ことばの学び, *9,* 16-19.

文部科学省 (2008a). 小学校学習指導要領解説（国語編）東洋館出版.

文部科学省 (2008b). 中学校学習指導要領解説（国語編）東洋館出版.

文部科学省 (2010). 高等学校学習指導要領解説（国語編）教育出版.

Rouet, J.-F. (2006). *The skills of document use: From text comprehension to web-based learning.* Mahwah, NJ: Erlbaum.

Sipe, L. R. (2000). A palimpsest of stories: Young children's construction of intertextual links among fairytale variants. *Reading Research and Instruction, 40,* 333-352.

Spivey, N. N. (1997). *The constructive metaphor: Reading, writing, and the making of*

meaning. New York: Academic Press.
田代直幸（2008）. 教科書ができるまで *Anthropological Science* (*Japanese Series*), *116*, 187-190.
Wiley, J., Goldman, S. R., Graesser, A. C., Sanchez, C. A., Ash, I. K., & Hemmerich, J. A.（2009）. Source evaluation, comprehension, and learning in Internet science inquiry tasks. *American Educational Research Journal, 46*, 1060-1106.

付記

本研究を行うにあたり，平成21～23年度科学研究費補助金・基盤研究（C）（課題番号21530680）の助成を受けた。